

ちり才便り

七月号

- 2020 -

暑中仰見舞申レエヤマキ

おお盛りはりますか？ 私達は細菌と共に暮らすから生きるとどう選択かはよく、深く理解し受け入れてください。旅行で受けたと発見で見えて来る事あります。30年ぶりにピタラヤが見えども姿は高く美しい。透明にひびきで見えたりには驚き、そこ世界中感動を覚えた。さうしてみのヴェネチアの海が

30年ぶりにピタラヤが見えども姿は高く美しい。透明にひびきで見えたりには驚き、そこ世界中の感動を覚えた。さうしてみのヴェネチアの海が感動を覚えた。さうしてみのヴェネチアの海が細菌にも罪はない。共生出来ばくとも人間側から学び進化していく道を正して、いくべき限界を見せられてする。それが夏バテと共に身体もバテバテになり、手足や頭などヒントに脳内が感染される。やる事と辛やれどもホルモンのドーパミンについて、マジネリやストレスを感じてると感ナリ。注意力低下、筋肉の硬さ、痛みを感じくなるだろう。

何に挑戦したり脳に刺激が必要の手で運動して血流が良くなるとさらに効果的だ。気持ちワクワクするよ。計画などモード。ミニの今必要な量が増えますから内向性生活からは計画から始めます。よう！ 1/11は田舎リセミナーの開催が決定しました！ 各川温泉とパラオンヌレセミナーへ3から6本オフです。生命エネルギーの源は「気」。元気にはスイッチを入れ、よく食べてよく眠り、歩きぬけて暑さに貢献する。無理のないようご自慢以上お出で下さい。

令和二年七月吉日 松本幸子様



中国の故事に「塞翁(さいおう)が馬」という話がある。
昔、国境のとりで(塞の近くにひとりの老人(翁)が住んでいた。あるとき老人の馬が逃げたので、隣人たちがなくさめると、老人は「そこのうち福になる」と答えた。すると数カ月後、逃げた馬が立派な馬を伴って帰つて来た。隣人たちが喜ぶと、老人は「いざれ禍(わざわい)にならぬかも知れぬ」と言つた。

しばらくして、老人の子がその馬から落ちて足の骨を折ったので、人々がなくさめると「これはまた福になる」と老人は言つた。やがて戦争が起きたとき、老人の子は足が悪かったため徴兵を逃れた。人の世は、禍福が定まらない。人生の幸、不幸は、いつもどう変わるかわからない。だから、いいときも悪いときもしつかり「今」を見つめ、地に足をつけて生きていくこと。

